

平成26年10月27日(月)

老球の細道76号

『日本バスケットボールの危機』

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

「日本バスケットボール協会の深津泰彦会長が23日、男子の国内リーグの統合が難航している責任を取って辞任した。国際バスケットボール連盟から、10月末までに2リーグ統合の見通しを示せない場合には、資格停止などの制裁を科すと通達されていた。制裁を受けている間は国際大会には出場できず、来夏に迫ったリオデジャネイロ五輪の予選にも影響を及ぼしそうだ」(朝日新聞10月24日)。東京五輪だって危ないかもしれない。

日本協会がトップリーグと公認するNBLはかつての実業団リーグの流れをくみ、13チーム中5チームは企業が保有する。一方、協会から独立して2005年に発足したbjリーグは全22チームがプロチーム。このような2リーグに分裂した状態を国際バスケットボール連盟のパウマン会長が日本バスケットボールの発展を阻害しているということで今回の警告となった。日本協会のコンプライエンス(統治)が今問われている。

5年前にも警告を受けている。2008年から日本協会が統合に向けて検討委員会を設立して動き出したが、いまだに平行線をたどっている。今回はNBLの企業チーム側が、チーム名称から企業名を外すことに難色を示して同意しないでいるという。

協会幹部は「今はリーグを一つにすることが重要」と、完全プロ化にこだわるbjリーグ側にいらだちを隠さないでいる。しかし、その場しのぎだといえる姿勢に身内のNBL関係者からも「制裁回避が目的化してはいけない。協会に求められるのは理念だ」という批判がある。まさしくその通りだと思う。

そもそも1990年代から2000年初めにかけて、日本の多くの企業スポーツが不景気という理由で廃部になっていった。バスケットボールでは「日本鋼管」「住友金属」「熊谷組」など日本リーグの優勝チームでさえ次から次へと姿を消した。サッカー界はこのような動きに危機感を感じて、いち早くプロ化を目指してJリーグを立ち上げた。

バスケットボール界もと思いきや、当時の協会トップはその決断ができずに現状維持に留まってしまった。それに反発した現bjリーグコミッショナー河内氏は新潟アルビレックスなど6チームで当時の日本リーグ(現NBL)から脱退してbjリーグを創った。私は当時、歴史的な日本プロバスケットボールの初ゲームを「朱鷺メッセ」で観戦したが、日本のバスケットボールがこれから変わることを予言できた。

今までアメリカのNBA、ドイツのブンデスリーグ、スペインのスペイン国王選手権など世界のトッププロのゲームを観戦して来た。平日でも仕事を終えて街のアリーナに1万人近く集まって熱狂するファンのもとで最高のプレーを演じるプロフェッショナル達。それを見て、興奮、感動して、明日へのエネルギーをもらうファン達、早くこのようなバスケットボール環境が日本にもできればと何度思ってきたことか。

先日猪苗代カメリーナで二日間bjリーグの試合を観戦したが、観客はなんと八百人位。同じ日に郡山で行われていた「B-1グランプリ」には「ん十万人」の人が集まった。

日本のバスケットボールが世界で通用するようになるためには、24時間バスケットボールのことを考える人間を高額で雇えるプロチームがなければ不可能である。日本バスケットボール協会の英断に期待する。